

## 院長交代のご挨拶

疎水端の桜が満開ですが、新型コロナウイルス感染の影響でライトアップもなく、花見も自粛要請があってさみしい春となりました。諸外国のようなパンデミックとなれば医療崩壊が危惧されますので、外出を自粛して感染を避けるべきことは当然でしょう。

ところで、私事ですが、当院の病院長として丸5年間勤務して参りましたが、この度、3月末をもちまして退任することに致しました。後任には、当医療法人の理事長であります坂口昇が再度、就任致します。これまで、お寄せ頂きましたご厚誼に心より御礼を申し上げますとともに、後任の坂口にも変わらずご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致します。当院は、この5年間で療養病棟を全廃し、180床すべてを回復期リハビリテーション病棟に転換し、現在ではすべての病棟で最上の施設基準を取得するなど大いに進化して参りました。病床稼働率も安定して90%を超えております。ストレッチャーで運ばれ、ご入院された大半の患者さんは笑顔で歩いてご退院されています。そのような状況をみるにつけて、手前みそですが地域医療に貢献していることを実感致します。心臓疾患の救急を受け付けるホットラインを做って腰痛サポートダイヤルを開設し、脊椎圧迫骨折などの腰痛症の方々を数多く受け入れて参りました。その活動を通して、この大津でも高齢者が急増して骨粗鬆症が蔓延していることが実感されました。当時に、入院時に測定したNT-proBNP検査値から慢性うっ血性心不全、推算糸球体濾過量から慢性腎臓病、HbA1c値から糖尿病などの患者さんが如何に多いかを思い知らされました。中でも、調査しますと、慢性うっ血性心不全が示唆される方は、入院患者さんの、実に75.9%にのぼっております。これらの疾患は、私の専門分野ですので喜んで大いに仕事をさせて頂きました。在任中には、職員各位の努力のおかげで大過なく過ごすことができ感謝しております。また、多くの患者さんをご紹介頂きました急性期病院・かかりつけ医の先生方、ケアマ

ネジャーの皆様方に心より御礼を申し上げます。今後とも、当院をどうぞよろしくお願い致します。

高橋 伯夫



### 2020年診療報酬改定 リハビリテーション実績指数について

この実績指数は2016年に導入され、正式には下記の計算となります。

- ①の総和を②の総和で除したもの
- ①退棟時のFIM得点（運動項目）から入棟時FIM得点（運動項目）を控除したもの
- ②各患者の入棟から退棟までの日数を、当該患者の入棟時の状態に応じた算定上限日数で除したもの

病院はこの実績指数の点数が高くなるに従い、「短期間のリハビリ」で「多くの日常生活活動ができるようになる」ことを求められます。

当初の導入から、その点数は「27」から「37」に変更され今回「40」となりました。この変更は、今までよりも短期間での成果を求められています。

一方、リハビリテーションの効果は早期より短期集中的に実施すれば日常生活活動の改善度が高いことが証明されており、今後は更なる集中的なリハビリテーションの提供が必要となります。

琵琶湖中央病院リハビリ療法部は4月に理学療法士12名・作業療法士6名・言語聴覚士2名を新入職として迎え、総勢140名の体制で十分なリハビリテーションを提供します。

回復期リハビリテーション病棟に入院される方は、多くのリハビリテーションを受ける「権利」があると考えリハビリテーションを安定して提供できるよう努力いたします。

リハビリ療法部 部長 田中 隆司

